

音はどういったわるの

3年 説明文 7番

名前

友だちの声、鳥の鳴き声、太この音。わたしたちのまわりは、たくさん音であふれています。では、その音は、いったい、どのようにして、耳までつたわってくるのでしょうか。

音の正体は、物の「ふるえ」です。太こをたたくと、皮が、細かくふるえます。声を出すときも、のどのおくが、ふるえています。ために、音を出している物に、そっと指をふれてみてください。ビリビリと、ふるえているのが分かるはずです。このふるえが、音のもとなのです。

では、そのふるえは、どうやって、はなれた耳までとどくのでしょうか。じつは、物がふるえると、まわりの空気も、いっしょにふるえます。その空気のふるえが、波のように、つぎつぎと、まわりへ広がっていきます。そして、その波が耳にとどくと、わたしたちは、音として聞くのです。

音をつたえるのは、空気だけではありません。水の中や、木、鉄などでも、音はつたわります。それどころか、これらの中は、空気よりも、音はやくつたわるのです。糸電話で声がつたわるのも、ぴんとはった糸が、声のふるえをつたえているからです。

このように、音は、物のふるえが、まわりのものをつたわって、耳までとどくものです。目には見えなくても、音は、いつも、何かをふるわせながら、わたしたちのところへ、やってきているのです。

(1) この文しよによると、音の正体は、何ですか。文しよの言葉を使って書きましよう。

(2) 音を出している物に指をふれると、どうなるか書かれていますか。正しいものを一つえらび、記号に○をつけましよう。

ア つめたくなっている

イ ビリビリとふるえている

ウ しずかに止まっている

エ いろが赤くなる

(3) 物がふるえると、まわりの空気は、どうなりますか。文しよから書きぬきましよう。

(4) 音のつたわり方について、正しいものを一つえらびましよう。

ア 音は、空気の中しかつたわらない

イ 水や木、鉄の中では、音はつたわらない

ウ 水や木、鉄の中は、空気よりも音がはやくつたわる

エ 糸電話では、音はつたわらない

(5) この文しよを読んで、はじめて知ったことや、たしかめてみたいことを書きましよう。

例えば

「声を出すとき、のどがふるえていると知って、おどろいた。」

「糸電話を作って、本当に声がつたわるか、ためしてみたい。」

音はどうつたわるの

解答

3年 説明文 7番

名前

友だちの声、鳥の鳴き声、太この音。わたしたちのまわりは、たくさんの音であふれています。では、その音は、いったい、どのようにして、耳までつたわってくるのでしょうか。

音の正体は、物の「ふるえ」です。太こをたたくと、皮が、細かくふるえます。声を出すときも、のどのおくが、ふるえています。ために、音を出している物に、そっと指をふれてみてください。ビリビリと、ふるえているのが分かるはずです。このふるえが、音のもとなのです。

では、そのふるえは、どうやって、はなれた耳までとどくのでしょうか。じつは、物がふるえると、まわりの空気も、いっしょにふるえます。その空気のふるえが、波のように、つぎつぎと、まわりへ広がっていきます。そして、その波が耳にとどくと、わたしたちは、音として聞くのです。

音をつたえるのは、空気だけではありません。水の中や、木、鉄などでも、音はつたわります。それどころか、これらの中は、空気よりも、音はやくつたわるのです。糸電話で声がつたわるのも、ぴんとはった糸が、声のふるえをつたえているからです。

このように、音は、物のふるえが、まわりのものをつたわって、耳までとどくものです。目には見えなくても、音は、いつも、何かをふるわせながら、わたしたちのところへ、やってきているのです。

(1) この文しよによると、音の正体は、何ですか。文しよの言葉を使って書きましよう。

(例) 物の「ふるえ」です。

(2) 音を出している物に指をふれると、どうなるか。書かれていますか。正しいものを一つえらび、記号に○をつけましよう。

ア つめたくなっている

イ ☒ ビリビリとふるえている

ウ しずかに止まっている

エ いろが赤くなる

(3) 物がふるえると、まわりの空気は、どうなりますか。文しよから書きぬきましよう。

(例) いっしょにふるえる。

(4) 音のつたわり方について、正しいものを一つえらびましよう。

ア 音は、空気の中しかつたわらない

イ 水や木、鉄の中では、音はつたわらない

ウ ☒ 水や木、鉄の中は、空気よりも音がはやくつたわる

エ 糸電話では、音はつたわらない

(5) この文しよを読んで、はじめて知ったことや、たしかめてみたいことを書きましよう。

(例) 声を出すとき、のどがふるえていると知っておどろいた。糸電話を作って、本当に声がつたわるか、ためしてみたい。

例えば

「声を出すとき、のどがふるえていると知って、おどろいた。」

「糸電話を作って、本当に声がつたわるか、ためしてみたい。」

解答・解説 音はどうつたわるの（3年・説明文）

問1 （例）物の「ふるえ」です。

二つ目の段落に「音の正体は、物の『ふるえ』です」とあります。

問2 イ

二つ目の段落に「ビリビリと、ふるえているのが分かる」とあります。

問3 （例）いっしょにふるえる。

三つ目の段落に「まわりの空気も、いっしょにふるえます」とあります。

問4 ウ

四つ目の段落に「空気よりも、音がはやくつたわる」とあります。水・木・鉄でも音はつたわります。

問5 （例）声を出すとき、のどがふるえていると知っておどろいた。糸電話を作って、本当に声がつたわるか、ためしてみたい。

文しょうの内ようとつながって、気づきやためしたいことが書けていれば正かいです。